

松本哲也^{a,*}, 佐栞信也^b, 邑田仁^c: 岡山県新産のホソバテンナンショウとミヤママムシグサ (サトイモ科)

^a岡山大学大学院環境生命科学研究科

^b709- 岡山県

^c東京大学大学院理学系研究科附属植物園

Tetsuya K. MATSUMOTO^{a,*}, Shinya SAKUWA^b and Jin MURATA^c: New Records of *Arisaema angustatum* and *A. pseudoangustatum* var. *pseudoangustatum* (*Araceae*) from Okayama Prefecture, Western Japan

^aGraduate School of Environmental and Life Science, Okayama University, 1-1-1, Tsushima-Naka, Kita-ku, Okayama, 700-8530 JAPAN;

岡山県, Okayama, 709- JAPAN;

^cBotanical Gardens, Graduate School of Science, the University of Tokyo, 3-7-1, Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo, 112-0001 JAPAN

*Corresponding author: a.matsumotoi@s.okayama-u.ac.jp

Summary: *Arisaema angustatum* Franch. & Sav. and *A. pseudoangustatum* Seriz. var. *pseudoangustatum* (*Araceae*) were found at Ohgaya, Nishiwakura-son, Aida-gun, Okayama Pref., western Japan. This is the first report for these species from Okayama Pref.

筆者の一人(松本)は、2014年5月に岡山県英田郡西栗倉村の若杉天然林周辺において、ホソバテンナンショウ *Arisaema angustatum* Franch. & Sav. とミヤママムシグサ *A. pseudoangustatum* Seriz. var. *pseudoangustatum* (サトイモ科) を発見した。これらは岡山県新産であるためここに報告する。

1) *Arisaema angustatum* Franch. & Sav., Enum. Pl. Jap. 2: 507 (1878).

Voucher specimen: JAPAN. Honshu. Okayama Pref., Aida-gun, Nishiwakura-son, Ohgaya, 30 May 2017, S. Sakuwa 643 (KURA-227283).

ホソバテンナンショウ (Fig. 1A, C) は、関東、中部および近畿地方に広く分布し、中国地方周辺では兵庫県や鳥取県で報告例がある(邑田 1995, 2011, 福岡ほか 2008, 鳥取県植物誌研究会 2015)。

今回自生が確認されたのは岡山県英田郡西栗倉

村大茅の道路沿いの法面で、上層はスギが優占していた。下層にはフタリシズカやヒヨウノセンカタバミなどが散在していた。本種は1, 2本ずつ点々と自生しており、多数が集中しているような場所は認められなかった。また、同所的にウメガシマテンナンショウ *A. maekawae* J. Murata & S. Kakishima が自生しており (Fig. 1B, D), 一部にホソバテンナンショウとウメガシマテンナンショウの中間形が認められた (Fig. 1E)。一般に、日本産のテンナンショウ属では種間での遺伝的分化が小さく (Murata and Kawahara 1995, Ohi-Toma et al. 2016), 野外でも同所的に自生する種間でしばしば交雑由来と推定される中間形が認められる(邑田 1995, Kobayashi et al. 2005, Hayakawa et al. 2010)。本自生地では、ホソバテンナンショウとウメガシマテンナンショウの花期が重複しており、染色体数もともに $2n=28$ であることから(邑田 2015), 両種の間で交雑が生じる可能性は十分に考えられる。

2) *Arisaema pseudoangustatum* Seriz. var. *pseudoangustatum* in Shidekobushi 2: 107 (2013).

Voucher specimen: JAPAN. Honshu. Okayama Pref., Aida-gun, Nishiwakura-son, Ohgaya, 5 Jun 2017, S. Sakuwa 656 (KURA 227270).

ミヤママムシグサ *A. pseudoangustatum* var. *pseudoangustatum* (Figs. 2, 3) は中部地方 (山梨・長野・岐阜・静岡・愛知の各県), 近畿地方 (兵庫県), 中国地方 (鳥取県) に自生することが知られている (邑田 1995, 芹沢 2013). ただし, 芹沢 (2013) では鳥取県の集団をミヤママムシグサではなくスズカマムシグサ *A. pseudoangustatum* var. *suzukaense* Seriz. としている. このように, 西日本での報告例は大山 (鳥取県) と氷ノ山 (兵庫県) の2カ所にとどまっている (邑田 1995, 芹沢 2013).

今回自生が確認されたのは, 岡山県英田郡西粟倉村大茅のブナ, ホオノキおよびミズメの優占する若杉天然林 (Ariya et al. 2015) から, スギの人工林にかけての溪流沿いの林床である. 天然林の下層は, 主にチシマザサが優占しており (Ariya et al. 2015), 沢沿いにはヤグルマソウ, ヒロハテンナンショウ, ヒョウノセンカタバミをはじめとする多くの多年生草本が認められた. 人工林の下層植生は疎らだったが, 開けた場所にはミゾホオズキやウバユリなどが生育していた. 本種は沢沿いの林床に1, 2本ずつ点々と生育しており, 雄個体と雌個体を合わせて20本程度の自生が確認された. また, 本地域においては比較的標高の高い場所 (標高 850 m 以上) でのみ自生が認められ, 中国山地のほかの場所でも同様の傾向が報告されていることから (邑田 1995, 芹沢 2013), 中国地方における分布は山地に広がる冷温帯ブナ林周辺に局限していると考えられる.

本研究では, 標本の閲覧にあたって倉敷市立自然史博物館 KURA の狩山俊悟氏にお世話になりました. また, 現地での観察に際して岡山大学大学院環境生命科学研究科の廣部 宗教授, 宮崎祐子助教, 赤路康朗氏 (現 国立環境研究所), 山田和弘氏にご協力をいただきました. ここに記して御礼を申し上げます.

摘 要

岡山県英田郡西粟倉村大茅において, ホソバテンナンショウ *Arisaema angustatum* Franch. & Sav. とミヤママムシグサ *A. pseudoangustatum* Seriz. var. *pseudoangustatum* を発見した. これらは岡山県新産である.

引用文献

- Ariya U., Hamano K., Makimoto T., Kinoshita S., Akaji Y., Miyazaki Y., Hirobe M. and Sakamoto K. 2015. Temporal and spatial dynamics of an old-growth beech forest in western Japan. *J. For. Res.* **21**: 73–83.
- 福岡誠行・黒崎史平・高橋 晃 2008. 兵庫県産維管束植物 10. 人と自然 **19**: 161–222.
- Hayakawa H., Hamachi H., Muramatsu Y., Hirata A., Minamiya Y., Matsuyama K., Ito K., Yokoyama J. and Fukuda T. 2010. Interspecific hybridization between *Arisaema sikokianum* and *A. tosaense* (*Araceae*) confirmed through nuclear and chloroplast DNA comparisons. *Acta Phytotax. Geobot.* **61**: 57–63.
- Kobayashi T., Murata J. and Watanabe K. 2005. Two new putative natural hybrids in Japanese *Arisaema* (*Araceae*). *Acta Phytotax. Geobot.* **56**: 105–110.
- 邑田 仁 1995. マムシグサ群の多様性. 植物分類, 地理 **46**: 185–208.
- 邑田 仁 2011. 日本のテンナンショウ. 北隆館, 東京.
- 邑田 仁 2015. テンナンショウ属 *Arisaema* Martius. 大橋広好ほか (編集). 改訂新版 日本の野生植物 **1**: 93–106. 平凡社, 東京.
- Murata J. and Kawahara T. 1995. Allozyme differentiation in *Arisaema* (*Araceae*) (3) *Arisaema serratum* Group (Sect. *Pedatisecta*). *J. Phytogeogr. & Taxon.* **42**: 99–109.
- Ohi-Toma T., Wu S., Murata H. and Murata J. 2016. An updated genus-wide phylogenetic analysis of *Arisaema* (*Araceae*) with reference to sections. *Bot. J. Linn. Soc.* **182**: 100–114.
- 芹沢俊介 2013. 日本産マムシグサ群の分類 (1) ミヤママムシグサ. シデコブシ **2**: 99–109.
- 鳥取県植物誌研究会 2015. ホソバテンナンショウ, web版 兵庫県植物誌. <http://floratottori-trial.seesaa.net/article/422669146.html> [2017. 8. 20 アクセス].